

2016年マルメ研修を終えて

今回が生まれて初めての海外研修となりました。

まず出発前から英語の講義は大丈夫だろうかという不安がありました。実際は非常に分かりやすくまた機微に富んだ、素晴らしい通訳の先生達のおかげで、全く問題なく研修を受けることが出来ました。

研修中は、少し緊張しながらその場その場の講義を聴くことに必死になっていましたが、帰国後改めて頂いた資料を読み返し講義内容を思い返すにつれて、より一層先生方のご配慮を実感しております。初日のイントロダクションで、研修の目的に「**To confirm knowledge / To add knowledge / To get new perspectives**」とあった通り、講義全体を通してこれまで自分が持っていた知識や理論を再確認しながら、きちんとエビデンスに基づいた様々な新たな知見を得、更に日本を離れてスウェーデンの歯科医療という新しい視点を知るといふ、考え抜かれた内容の研修だったのだと改めて感じました。特に、新たな視点という面では、日本の保険制度や歯科医療の現状という「自分の中の常識」を一度リセットして、制約を設けず純粋に「本当の意味で口腔の健康を増進させる・維持するにはどうすれば良いかを考える」ことを学びました。

近年では移民の問題が大きくなりつつあるとはいえ、やはりスウェーデンのように幼少期から「フッ素による予防歯科が大切」「歯医者や歯科衛生士は人気の職業」という環境を当たり前のことと認識しながら成長し、リスク評価により自分の口腔健康は自分で変えられるものだと理解する土壌がもう少しでもあれば、日本でも歯科医院がより身近な存在になり、日々の診療で担当患者さんから「歯を失って初めて歯の大切さに気付いた」という言葉を聞くことも少なくなるのだろう、と思いました。

また、歯科衛生士が診断や局所麻酔を行うことが認められているのも、日本と大きく異なるところで驚きつつも頷ける話だと感じました。結婚や出産で家庭に入ったあとに現場復帰することについても、講師が（スウェーデンでは女性だけが家庭に入ることはほとんどないため）“女性の社会現場復帰”という日本でよく取り沙汰される問題自体を最初よく理解出来ない風に反応していらしたことが、“自分の常識は他人の非常識”という言葉をよく表しているようで、不意に目から鱗が落ちる思いでした。

最終日には立派な研修修了証とMIのピンバッジを頂きましたが、今回の研修で得られたものを決して表面だけで丸呑みにせず、きちんと咀嚼して内省し、今後の自分の姿勢に、そして自己満足ではなく患者さんのために還元してこそ、これを誇る資格があるものだと考えております。

初めての海外研修は、日々の臨床で無意識に少しずつうまいこと丸く収まろうとしてきた自分に気付かされた、良い意味で非常にショッキングな出来事となりました。貴重な経験を与えて下さった素晴らしい講師陣、スタッフの皆さま、そして同じ時間を共有した受講者の皆さま、本当に有難うございました。